



おーい！くじらぐも

Vol.55 2026年（令和8年）1月号

発行人：(福)健翔会 相談支援センターくじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL:048-580-3634 FAX:048-554-8814

MAIL:kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

相談支援センターくじらぐもは1月31日を持って休止となります。ありがとうございました。



子どもたちが体操をしていると、空に真っ白い雲のくじらが現れました。先生が笛を吹いて、止まれの合図をすると、くじらも止まりました。「くじらは学校が好きなんだね」



いきなり、風がみんなを吹き飛ばし、手をつないだまま、雲のくじらに乗っていました。くじらは青い空のなかを、元気いっぱい進んで行きました。



先生が「帰ろう」と言うと、くじらはジャングルジムの上をみんなを降ろし、「さようなら」と、空の中へ帰って行きました。

『ご利用児者の家族との関係性も重要

～お互いにとって対等な立場を保つために～

現場で働いてきた私にとって、何より大切にしていることがあります。それは、事業所と本人・家族の立場がなるべく対等に保てるようにということです。それには、本人および家族との深い関係作りが重要であり、その築かれた関係性は、ご利用児者が安心して生活できる環境を作り出す鍵となります。信頼関係の基盤を作るには、オープンなコミュニケーションが必須です。ご利用児者のニーズや希望だけでなく、家族の思いや期待も汲み取り、それに対して思いを共有していくことが大切で、このプロセスを経て、安心を提供する土台が出来上がります。理想としては、お互いが言いにくいことも言い合える関係です。

家族との関係性を深めるには、①まず、思いに傾聴 ②ご利用児者に取り巻く環境全体に目を向け、家族の負担感や思いに寄り添う ③職員としてどのような支援ができるか、必要なのかをチームで生み出し、実際に支援を行っていくこと、この3つが大きな要素です。

例えば、利用児者の健康状態や日常の小さな変化を見逃さず伝えること。それは、一緒に過ごす時間の重要性和日々の平凡な時間の共有で生まれるものです。これによって、家族は大切な人が、よい手に守られ楽しく安全に生活できていると安心します。

ご利用児者本人との信頼関係を深めることは言うまでもありませんが、その過程で得たご利用児者の好みや興味、生活履歴などの情報を共有することで、家族も本人の現状をより深く理解し、支援の方法を一緒に考えるうえで、有益な情報となります。

現場で働く職員と家族との関係性を深めることは、「お互いの理解と尊重」に基づく信頼関係の構築を意味します。この関係性が築かれることで、ご利用児者にとって、最もよいサポートが提供され、より充実した日々をおくることができます。私たちは、ご利用児者だけでなく、「ともに」家族の心にも寄り添うことで、真の意味での支援が行えるのではないのでしょうか。

<1月のトピックス>

グループホームに入居が決まった家族との面談で、「これで少しはゆっくりできるかな」との言葉が。私は「今までお世話になったと本人からのプレゼントですよ」と返答。ご苦労が身に染みしました。